

北相模総守護社  
亀ヶ池八幡宮

社報

# 龜ヶ池



第17号

平成26年7月1日発行

ご神威のもとに

新御本殿千木鯉木と鬼板

いちよう

世の中に太かるべきは宮ばしら  
細かるべきは心なりけり

— 荒木田守武・世中百首 —

奈良時代の歌人大伴家持は、「人の子は祖の名経たず」として、祖先の名をはっきり世に現はすことが子孫の勤めであるとした。

神社は祖神を祀ったところとして、祖神の御名・御徳が大きければ大きい程、人々からはっきりと仰がれる。

ここに神殿の建築には宮柱を太敷き立てることの必要が、語り継ぎ今日にその技術の継承がされていることも、神社建築の祖型を大切にすることである。その神社建築のうちでも心の御柱(大黒柱)のはっきり立派に立っていることが、神の御心・御教の立派に立っていることの証明とされているのはそのためである。

家の大黒柱をドッシリと立てるまでには、どれ程人知れぬ細心の注意と苦労があることであろう。神とは到達さるべき理想像である。従って、信仰の目標は大きく持つべく、そこに到るための努力は、その御教えをこまかく注意して聞き、着実に一歩一歩踏みしめる所から始めらるべきである。世にいう百里の道も一歩からである。

荒木田守武は伊勢皇大神宮の禰宜。この世中百首は大永五(一五二五)年に重蒙訓練のために、一夜にして百首を詠んだという。岡田米男「神道百言」より

祝祭日には  
国旗を掲げましょう



今年の2月、関東地方では記録的な大雪となりました。その大雪に見舞われる一週間前の2月3日、亀ヶ池八幡宮恒例の節分祭が齋行されました。

今年は御鎮座800年奉祝記念事業により御社殿造営中の為、例年拝殿にて行っている追儼の儀を境内特設会場にて行いました。大太鼓に合わせて年男年女や厄年の善男善女が新規なった追儼板を力強く打ち鳴らし、福を授かろうと神楽殿前に集った参拝者も一緒に、オー!と大きな声で赤鬼青鬼を退散させました。

その後神楽殿回廊の特設舞台より「福は内、鬼は外」と発しながら豆まき神事を行い、大勢の参拝者に福物をお頒ちいたしました。多くの福物を御協賛下さいました氏子崇敬者の皆様に篤く御礼申し上げます。

平成二十六年甲午年の元旦は、初春を寿ぐかのような初日出を仰ぐ穏やかな新年を迎えました。

昨年十月第六十二回神宮式年遷宮遷御の儀が内宮においては二日に、また外宮においては五日に斎行され、その後国内外より千四百二十万人以上の参拝者が参宮し、「お伊勢参り」も賑やかに輝かしき日本の伝統が継承されました。

御高承の通り、天皇陛下におかれましては、傘寿を迎えられ、お健やかに過ぎ去り、本年三月二十六日には、二十年振りに剣璽御動座が行われ、神宮に御親拝遊ばされました。

当八幡宮においては、三が日も初詣で多くの参拝者が訪れ御社殿造営中の

平成二十六年甲午年  
初詣賑わう御社頭 — ご利益満願 —



為、遥拝所よりご参拝下さいました。新社殿は本年八月に竣功いたします。来年の正月には瑞々しい新社殿で清々しく初詣



神様に参拝し、第六十二回式年遷宮から間もない、新しく瑞々しい社殿を拝見して感じたことを、今後の奉仕神社護持の為に活かして頂ければと思っております。

去る三月五・六日、相模原市氏子総代会として伊勢参拝旅行を実施いたしました。当総代会は発足して間がなく、この伊勢参拝が初めての研修事業となりましたが神職、総代、氏子合わせて約八十名の御参加を頂きました。

神宮では平成二十五年十月に第六十二回式年遷宮が執り行われ、新しい社殿と以前の社殿が両立しているところを見られるこの貴重な時期に実施の運びとなりました。外宮では御垣内参拝の後特別に、古い社殿の御垣内を見学させて頂き、普段見ることのできない社殿の姿を目の前に、皆様感動しておられました。地元氏子の方々と密に接する各お社の総代皆様には、神社信仰の心を広める役割を担って頂いております。皇室の御祖神であり国民の総氏神である天照大御神様に参拝し、第六十二回式年遷宮から間もない、新しく瑞々しい社殿を拝見して感じたことを、今後の奉仕神社護持の為に活かして頂ければと思っております。

相模原市氏子総代会  
伊勢参拝研修旅行

ができますので、多くの方々のご参拝下さいますよう神職・巫女一同、心よりお待ち申し上げます。

夏越大祓式  
茅の輪くぐり神事

水無月の

なごしの祓する人は  
千歳の命延ぶというなり

前日から降り続く雨により清められた六月二十八日午後三時、亀ヶ池八幡宮儀式殿並びに境内において古式に則り「夏越大祓・茅の輪くぐり神事」が斎行されました。



日本古来の伝統的な行事である大祓は、神話に基づいた「よみがえり信仰」の根源となる神事です。日々の生活の中で知らず知らずのうちに身についた罪や穢れを祓い清め、心身を一新し災厄を退け今後半年間の無病息災を祈願する意義があります。

当日は儀式殿内にて神職の大祓詞奏上後、総代世話人はじめ参列者が列になり、神職に続いて境内に設けられた直径三メートルの茅の輪をくぐりました。茅の輪をくぐる際には故事に習い「蘇民将来」と唱え、無病息災を祈念します。

今回初めて参加された方は、「いろいろ古い伝統を体験することが出来て良かった」と、話していました。

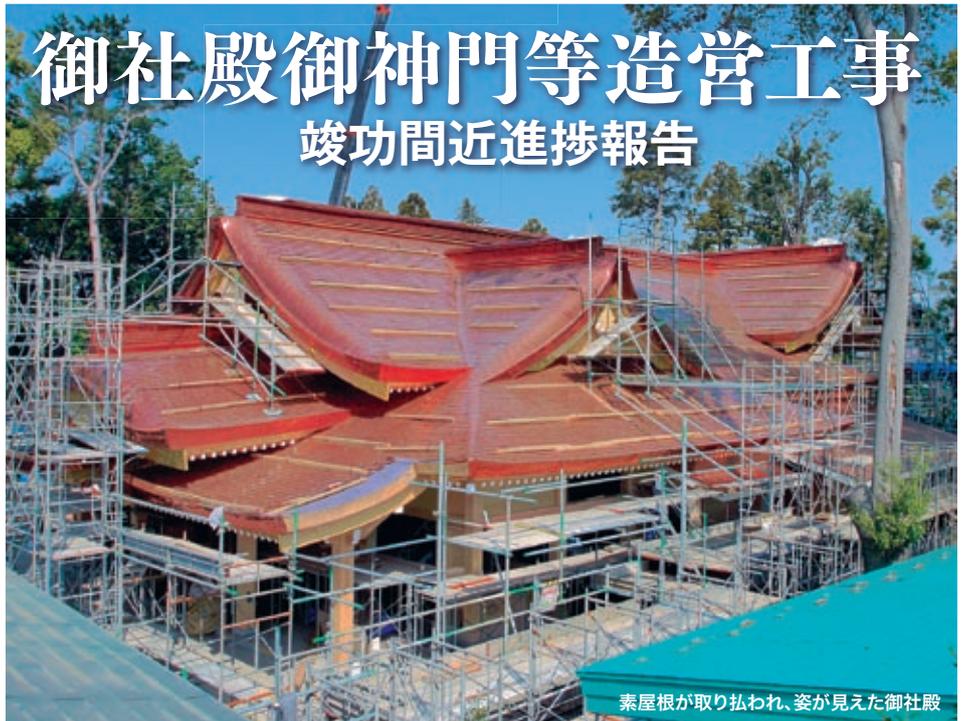


五月二十五日、五月晴れの中、神楽殿前の特設舞台にて、第四回一心泣き相撲亀ヶ池場所が開催されました。

泣き相撲は赤ちゃんの健康と成長を祈願する日本の伝統行事です。赤子の泣き声が邪を祓った故事を由来とし、四百年以上の歴史を有します。また、氏神に対する新しい氏子の披露という意味もあります。

当日境内は熱気と泣き声に包まれました。行司の「はっけよい、のこった」の掛け声とともに力士に頭上高く振り上げられる赤ちゃん力士達。取り組み前からすでに泣いている子、勝つ気が全然なくけろっとしている子、笑ってしまおう子など反応もさまざまです。一方、土俵下ではカメラやビデオを手にしたお父さん、お母さん達が、愛しの我が子の戦いぶりをハラハラしながら見守っています。

勝負は全取り組みとも「引き分け」の特別ルールで、泣いた子、泣かなかった子も元気に育ってほしいと願うばかりです。泣き相撲亀ヶ池場所は、赤ちゃん力士達の泣き声と取り組みを見守る親御さん等の笑い声が絶えない、ほのぼのとした雰囲気いっぱいの行事になりました。



昨年三月末に地鎮祭を斎行し御社殿御神門等の造営工事が開始され、以来八月に立柱祭、十二月に上棟祭を斎行し、経験豊富な多くの宮大工・工匠等により工事は進められてきました。

宮大工等が御用材を切る音や削る音、また木槌を打つ音等建物が建っていく何とも喻えようが無い音が日々境内に響きます。竣工を目指して御造営の現場が毎日息をしているかのようです。

本殿の内陣外陣また幣殿の丸柱や拝殿向拝殿の角柱、更には廻廊神門の柱が建ち、本殿に千木・鯉木が上がり屋根の銅板葺工事へと進み、いよいよ八月木曾檜の馨しい社殿の完成が待ち望まれる次第です。本紙面下記に主な工事経過をご報告いたします。



1 御本殿基礎工事 2 素屋根工事 3 御本殿建方 4 御本殿屋根工事 5 御本殿銅板葺工事 6 千木鯉木取付 7 右廻廊屋根工事 8 内庭石畳工事  
9 向拝殿より望む神門左右廻廊工事 10 拝殿内部工事 11 神門廻廊銅板葺工事

